

介護経験者にインタビュー

「認知症介護 16年目」



オレンジリング(P4参照)をつける  
坂本恵司さん

**母の日記**  
偶然、家で見つけた母の日記。認知症が進んでいく過程での悔しさ、無念さ、自分が壊れていく恐怖感が綴られていて…。この想いを知った時から、母への接し方が変わりました。表にあらわれる言動への嘆きより、心に寄り添っていききたいと思うようになりました。

特集

男性  
130  
～明日に

男性が親や妻を介護時代になりました。献はありますが、一方で伝わってきます。不慣との折り合い、介護の介護疲れや生活苦。と孤立せず、新しい人スになるように、とも

※ 厚生労働省

大変だったこと

始めは「母の手を握る」ことが気恥ずかしかつたです。出先では付き添いで女性用トイレに入ることも。何より辛かったのは人の目。病院に連れて行くと、母はいろいろな方に話しかけるのですが、母の「異状」に気づいた時、表情が変わり、席を立ち、その場から去って行ってしまおう方たちが多くいたこと。辛さと申し訳ない気持ち。認知症への理解が広がり、母はそれを望むだろうか。ということ。在宅ではなく施設での介護を決定するには、少し悩みました。

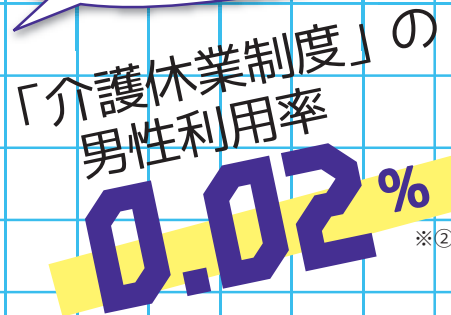
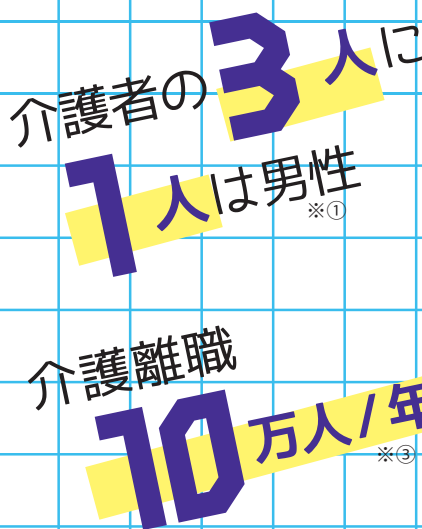
母はそれを望むだろうか

仕事を辞め、在宅で、納得いくまで母を看ようと考えたこともあり、その時、自分に問いかけたことは「母はそれを望むだろうか」ということ。在宅ではなく施設での介護を決定するには、少し悩みました。

介護を通じて感じたこと

介護は女性がするのが当然「家庭の問題」との意識がまだ強い。こうした「外に出ない」介護は結局、自分が追い詰められ、行き詰ってしまふということ。社会の手も借り、心の余裕を持ち、自分もできる範囲で出会う高齢者を見守り、社会の力にな

今どきの介護  
まるわかりデータ



出所  
※① 厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成25年)  
※② 厚生労働省「雇用均等基本調査」(平成24年度)  
※③ 総務省「平成24年就業構造基本調査」

インタビューを終えて

介護は世界を広げ、人を成長させるきっかけにもなる。「当事者家庭だけの問題ではない」という言葉が心に残りました。(堀)

介護保険とは

介護保険は市区町村が運営し、40歳以上の方が加入します。地域包括支援センターが中核となっており、高齢者の暮らしを地域ぐるみで支える制度です。65歳以上の方は介護が必要と認定されたときには、介護サービス・介護予防サービスを利用することができます。40歳から65歳未満の方は特定疾病(16種類)が原因で介護が必要と認定された場合、サービスを受けることができます。介護保険の利用には、本人または家族が市の担当窓口へ申請する必要があります。自分たちで申請できない場合は、地域包括支援センターなどに申請代行を依頼することもできます。

※平成27(2015)年4月、介護保険制度が改正されます。詳細は高齢支援課にお問い合わせください。497・20800

- ◆清瀬市地域包括支援センター  
担当地域 松山  
497-2082
- ◆きよせ社協地域包括支援センター  
担当地域 上清戸・中清戸・下清戸・元町  
495-5516
- ◆きよせ信愛地域包括支援センター  
担当地域 竹丘・梅園・野塩  
492-1850
- ◆きよせ清雅地域包括支援センター  
担当地域 中里・下宿・旭が丘  
495-1370